

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		船山 世界		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
分野	認定課程名	認定学科名		専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
工業	工業専門課程	AIシステム科		平成30(2018)年度	-	令和 2(2020)年度				
学科の目的		機械学習を中心としたAIプログラミング技術およびビッグデータ技術、IoT活用技術に関して実践的な知識と技術を有したエンジニアを育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		【取得可能な資格】 オラクル認定Javaプログラマ/Python3エンジニア認定/統計検定/日本ディープラーニング協会 G検定/データサイエンティスト検定/AI検定 【在学の状況】 令和5年4月1日時点において、在学者163名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者152名(令和6年3月31日卒業者を含む)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,710 単位時間 単位	570 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,200 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率					
140 人	170 人	64 人		38 %	7 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		70 人							
	■就職希望者数(D)		70 人							
	■就職者数(E)		70 人							
	■地元就職者数(F)		70 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和元~5年度卒業生) ICT業界、AI・ビッグデータ業界、システム開発業界 トヨタ自動車、日本電気、ドコモ・データコム、ソブラ、電通総研IT、ヤマトシステム開発、Aintonジャパン、テクノプレイブ、ソーバル、など									
第三者による学校評価	民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構 受審年月: 令和5年3月31日 評価結果を掲載したホームページURL https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/									
当該学科のホームページURL	https://www.jec.ac.jp/course/ai/ca/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		1,770 単位時間							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間								
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間								
うち必修授業時数		1,710 単位時間								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間								
(B: 単位数による算定)										
総授業時数		単位								
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位								
うち必修授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		3 人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人							
	計		4 人							
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人								

博士1名を含む

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	①
古川 武利	富士インフォックス・ネット株式会社 業務ソリューション事業部 サブマネージャー	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	③
船山 世界	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
福田 竜郎	日本電子専門学校 AIシステム科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月5日 10:00～12:00 開催

第2回 令和6年2月27日 10:00～12:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

1年次前期科目「AIアルゴリズム」について

1年次前期科目「AIアルゴリズム」(週90分の授業)では、サーチとソートの代表的なアルゴリズム、リストやスタックなどのデータ構造、遺伝的アルゴリズムを取り上げている。[補足資料参照] これまでは、AI(広くは最適化問題)のアルゴリズムも幾つか取り上げていたが、学生が消化不良気味になっていた。そこで、基本的なアルゴリズムを身に付け、それを組み合わせることで発展につなげるという考えのもと、取り上げるアルゴリズムの数を年々減らしている。さらに、学生が消化できる学習量を考え、以下の2つの案を学科内で検討している。

- ①科目「AIアルゴリズム」内で取り上げるデータ構造・アルゴリズムを厳選して減らすことで、1つずつのアルゴリズムにかける時間を増やし丁寧に教え、演習問題により考える時間を授業内で多く確保する。
- ②「AIアルゴリズム」の授業をカリキュラムから外して、その中で取り上げていたアルゴリズムをより厳選し、1年次前期科目「コンピュータリテラシー」(週180分の授業)内に含めて取り上げる。(この場合は、科目「コンピュータリテラシー」の内容も検討する必要がある)

委員の皆様には、新入社員の技術研修などの状況を踏まえて、「アルゴリズムの学習分野として、入社までに最低限知っておいてほしいこと」、「アルゴリズムを身に付けさせるために〇〇を工夫しながら教えている」「アルゴリズムを身に付けさせる手法」などポイントがございましたらご教示頂ければと思います。

【意見】

- ・学生に何か課題(Kaggleなどを活用し)を与え、それを解決するための手段としてアルゴリズムが必要だとわかれば、みんな楽しく勉強するのではないかな？
- ・勉強の量というよりは、モチベーションや動機付けの問題ではないかな？
- ・コンピュータの知識の無い、何も知らない新入生がこのシラバスを見ると萎縮すると思う。
- ・アルゴリズムとはどういうもので、何のためにあるのか教えてあげる程度でいいのでは。教える内容をしぼってもよいのではないかな。
- ・授業で取り上げるアルゴリズムが多いので厳選は必要だと思う
- ・考え方のインプットだけでいいのではないかな？
- ・どのアルゴリズムを選ぶのが適しているのかを選択する能力が必要だと思う

【活用】

2025年度のカリキュラムから科目「AIアルゴリズム」を削除し、アルゴリズム・データ構造の内容を1年次前期科目「コンピュータリテラシー」に移行することにした。また「AIアルゴリズム」の単位数は1年次前期科目「Java I」の単位(1駒分)に移行し、演習問題を解く時間に割り当てる予定である。

【議題2】

AI活用の授業について

生成AIの普及により、近年AIシステム科の学生は「AIの仕組みをしっかりと理解してプログラミングしたい」と考えている学生と「詳しい仕組みはともかくとしてAIを活用したシステムを作りたい」(ここでは「AIの活用」と表現する)と考えている学生に二極化している。この状況は「AIプログラミングII」、「機械学習I・II・III」の科目で顕著であると感じている。そこで、それらのニーズに答えられるように、各科目内で「AIの活用」のトピックを入れたいと考えている。具体的には、AIサービスを利用したAIシステム開発、プロンプトエンジニアリングに代表されるようなAIの活用を授業に取り入れたいと考えている。委員の皆様には、「AIの活用」として取り上げる、お勤めのAIサービスや業務におけるAIの活用事例などがございましたらご教示頂きたい。

【意見】

- ・AIの仕組みもAI活用についても両方知っておくことが必要
- ・今後は企業もAIを活用し業務を改善していかなければならないのでAIの活用も大切
- ・AIを使用する上でのリスクやガイドライン、著作権などの学びも大切。学生時代に考えておくのとよいと思う
- ・これからはデジタルネイティブならぬAIネイティブの時代が到来するのは間違いないので、AIリテラシーやセキュリティの観点でのAIの学びは必要。
- ・ゴールの設定次第ではないか。データサイエンスを目指すのか、AI活用を目指すのか？
- ・AIを使うエンジニアの需要はこれから増えるのではないかな？弊社ではプロンプトエンジニアの需要がきている。AIのモデルなどに興味がある学生には、論文を探す能力を身に付けさせたい。

【活用】

放課後に生成AIの講座を行った。生成AIが生成した生成物の著作権、ChatGPTのプロンプトエンジニアリングについて取り上げた。生成AI活用の授業を自由選択科目として作成することを検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

AI技術およびビッグデータ技術を有したAIエンジニアを育成するため、AIシステム開発企業と連携し、Pythonを使ったAIプログラミング技術やAIシステムの最新動向に関わる指導を受け、最新のAI技術を身に付けることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

AIシステム開発に携わっている現役のAIエンジニアより、PythonによるAIシステム開発の構築手法及びビッグデータの活用方法について学び、卒業研究に向けたAIシステムのアイデアを出し合うグループワークを行う。各グループには今日におけるAIシステム開発に有効な技術・知識の習得を目指す。また、作成した企画書を通して指導を行い、最後は評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
データマイニング	ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	テクノブレイブ株式会社
AIプログラミング I	Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ(NumPy、Matplotlib、SciPyなど)の基本事項について学びます。	テクノブレイブ株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、AIシステム開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や、教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。

現在は、AIシステム開発業界ならびにITに特化した企業が主催する研修に参加しているが、今後はAIシステム開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Microsoft Azure Virtual Training Day: AI の基礎	連携企業等:	マイクロソフト
期間:	令和5年9月14日	対象:	学科教員
内容	Microsoft Learn の「Microsoft Azure Virtual Training Day: AI の基礎」では、AI の中核となる概念をご紹介します。この無料トレーニング イベントでは、AI テクノロジを使用して組織が抱える現実的な問題を解決する方法や、Azure AI サービスを使用してインテリジェントなアプリケーションを構築する方法をご紹介します。		
研修名:	Microsoft Power BI – Power BI Desktop入門講座	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和6年3月18日	対象:	学科教員
内容	データ分析、ビジュアライゼーションを可能にするMicrosoftが無料で提供するPower BI Desktop		
研修名:	数学講師が教えるゼロからの統計学入門／データサイエンス・AIの基礎を身につけよう	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和6年3月18日	対象:	学科教員
内容	数学講師がゼロからわかりやすく効率よく解説し、区間推定・仮説検定までの習得が目標です。たくさんの図やグラフでイメージが湧きやすく、数式は少なめで練習問題も用意されています。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和5年8月3・10日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和5年8月22日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「アカデミックハラスメント」	連携企業等:	名川・岡村法律事務所
期間:	令和5年9月1日	対象:	全教員
内容	学生に対するハラスメントと実際の裁判例から学ぶハラスメントの具体例		

研修名: 「高等教育における ChatGPTなど生成AI の活用」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間: 令和5年9月14日	対象: 全教員
内容: 高等教育における生成AIの活用方法と事例について	
研修名: 「心理的課題を抱える学生の初期対応」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間: 令和6年3月26日	対象: 全教員
内容: 心理的課題を抱えた学生の初期対応をテーマに、対応方法を事例を交えて実践的に学習する。	
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 大規模言語モデル(LLM)の仕組み入門	連携企業等: 株式会社ベネッセコーポレーション
期間: 令和7年2月1日	対象: 学科教員
内容: 大規模言語モデル(LLM)の背景にある仕組みをコンパクトに学ぶ講座です。ニューラルネットワークの基礎、Transformerの基礎を学んだ上で、ChatGPTなどの仕組みを学びます。	
研修名: モダンJavaScriptの基礎から始める挫折しないためのReact入門	連携企業等: 株式会社ベネッセコーポレーション
期間: 令和7年2月1日	対象: 学科教員
内容: Reactの習得に苦戦する理由は「JavaScript」への理解不足です。このコースではスムーズにReact開発のスタート地点に立てるように、モダンJavaScriptの動作の仕組みや概念、機能から解説します。	
研修名: SPSS Masterclass: Learn SPSS From Scratch to Advanced	連携企業等: 株式会社ベネッセコーポレーション
期間: 令和7年3月1日	対象: 学科教員
内容: The Only Course You Will Ever Need to Learn IBM SPSS Statistics, Research, & Data Analysis Scratch to Advanced Level.	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 「教授法研修」	連携企業等: 株式会社ビーフォーシー
期間: 令和6年8月7・9日	対象: 新人教員
内容: 授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。	
研修名: 「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等: 株式会社ウチダ人材開発センタ
期間: 令和6年8月20日	対象: 新人教員
内容: 授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。	
研修名: 「休退学防止策」	連携企業等: 株式会社WENESS
期間: 令和6年8月29日	対象: 全教員
内容: 理論的根拠と実践例を基に、休退学者を出さない基盤づくりを学習する。	
研修名: 「多層化する専門学校生を読み解く」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間: 令和6年9月19日	対象: 全教員
内容: 専門学校の入学者層データを基に、休退学防止策を検討する。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
<p>本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、地域住民等とともに、ICT企業を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やAIシステム科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、AIシステム科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。</p>	

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・育成人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

様々な地域において、地震や豪雨などの災害が発生しており、多くの人が集まる学校においては「防災」に対する意識をこれまで以上に高める必要があるとの指摘を受け、次の対応を行った。

春季研集会(全教職員参加)にて、新宿消防署による「職場における震災時の対応」というテーマでオンライン防災訓練を開催した。また、『危機管理マニュアル』を更新し周知徹底を図るなど、「防災」への意識を高める取組みを行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
篠原 たかこ	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
中山 秀昭		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	保護者
福田 るあ		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
渡邊 紗羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
江藤 海羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
蔡 ダウム		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、AIシステム科の教育成果として、学園祭の学科展示などに広く来場を促すなど、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	組織図、教職員人数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6) 学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL : <https://www.jec.ac.jp/>

公表時期 : 毎年4月に更新

授業科目等の概要

(工業専門課程 AIシステム科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		コンピュータリテラシー	コンピュータの基本的知識について学びます。具体的には、コンピュータアーキテクチャと各種装置の役割、オペレーティングシステムの基本機能について学びます。	1前	60			○	○			○		
2	○		ソフトウェア工学概論	ソフトウェア工学の基礎について学びます。具体的には、共通フレームの役割、SLCPとそのモデル、各プロセスの基本アクション、ソフトウェアの品質について学びます。	1後	30		○			○			○	
3	○		ITストラテジ	企業に関する基礎知識およびシステム戦略における情報戦略について学びます。具体的には、企業活動と法務、経営戦略と技術戦略、システム戦略について学びます。	2前	30		○			○			○	
4	○		HTML&CSS	マークアップ言語の歴史と発展を踏まえた上で、最も基本的なWebページ表現技術であるHTMLとCSS3の文法について学びます。合わせて、CSSフレームワークを用いたWebサイトの構築方法についても学びます。	1前	60				○	○			○	
5	○		Java I	Javaによるプログラム作成から実行までの手順、Javaの基本文法（変数、各種演算子、フロー制御、配列、クラス・インターフェイス、継承、パッケージ、例外）について学びます。	1前	180		△		○	○			○	
6	○		Java II	Java APIに含まれる主要なライブラリの用途と利用方法について学びます。具体的には、基本パッケージ、ファイル入出力、ストリーム、ラムダ式などについて扱います。	1後	60		△		○	○			○	
7	○		クライアントサイドプログラミング I	クライアントサイドプログラミング技術としてJavaScriptを取りあげ、JavaScriptの基本文法からクライアントサイドの実装方法について学びます。	1後	30				○	○			○	
8	○		クライアントサイドプログラミング II	JavaScriptの各種フレームワーク／ライブラリを用いたWebアプリケーションのクライアントサイドの実装方法について学びます。合わせて、Canvas API、DOMプログラミング、JSONデータの取り扱い方法についても学びます。	2前	60		△		○	○			○	
9	○		サーバーサイドプログラミング I	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、Webアプリケーション実装の基礎について学びます。具体的には、サーブレット・JSPの作成方法、配備方法について学びます。	1後	60		△		○	○			○	

10	○		サーバーサイドプログラミングⅡ	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、永続化システムの必要性とその利用方法まで扱います。具体的には、JDBCの役割、JDBC API、DAOの役割について学びます。	2前	30					○	○	○					
11	○		データベースⅠ	データとモデルの関係、RDBMSの一般的なアーキテクチャ、主要なRDBMSの特徴を踏まえた上で、SQLによる基本演算（射影、選択、結合）について学びます。	1前	60		△			○	○					○	
12	○		データベースⅡ	SQLによる副問い合わせ、トランザクション制御、DDLについて学びます。更に、リレーショナルモデルと半構造化モデルを対比させながら、各種データのモデルについても学びます。	1後	30					○	○						○
13	○		オブジェクト指向分析・設計Ⅰ	ソフトウェアのライフサイクルおよびソフトウェア開発プロセスモデルを確認した上で、ロバストネス分析、ICONIXプロセスについて学びます。合わせて、ロバストネス図やUMLについても学びます。	2前	30		○				○						○
14	○		オブジェクト指向分析・設計Ⅱ	オブジェクト指向設計の原則を軸にソフトウェアパターン（アーキテクチャパターン、デザインパターン、実装パターン）について学びます。また、Spring Framework、Hibernateを利用し、依存性注入、O/Rマッピングについて学びます。	2後	60		△			○	○						○
15	○		人工知能概論	人工知能の歴史と発展を確認しながら、人工知能が対象としてきた問題領域、問題解決とその手法、フレーム問題、人工知能とビッグデータやIoTとの関係、各産業への利用事例について学びます。	1前	30		○				○						○
16	○		人工知能特論	人工知能を取り巻く最新の動向について学びます。例えば、最新の機械学習の理論、人工知能の活用事例、GPUなどのハードウェアの話題、などを取り上げます。	2後	30		○				○						○
17	○		AIアルゴリズム	AIに関連するデータ構造やアルゴリズム（整列アルゴリズム、探索アルゴリズム、グラフなど）について学びます。具体的に実装することで代表的なアルゴリズムの理解を深めます。	1前	30		○				○						○
18	○		AIプログラミングⅠ	Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ（NumPy、Matplotlib、SciPyなど）の基本事項について学びます。	1後	120		△			○	○						○
19	○		AIプログラミングⅡ	代表的な外部ライブラリ・API（TensorFlow、Keras、scikit-learnなど）を使用して、人工ニューラルネットワークの実装、学習に関するテクニックについて学びます。	2前	120		△			○	○						○
20	○		AIセキュリティ	情報セキュリティを維持するための基本技術（暗号化、電子署名、電子証明書など）について学びます。合わせて、人工知能を利用した情報セキュリティの脅威についても学びます。	2後	30		○				○						○
21	○		機械学習Ⅰ	現在の機械学習で有効な人工ニューラルネットワークについて学びます。パーセプトロンと学習手法をベースにして、多層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワークなどについて学びます。	1後	60		○			△	○						○

22	○		機械学習Ⅱ	教師あり学習のうち分類問題を取りあげ、分類決定木、ナイーブベイズ、サポートベクターマシンの基本構造、最適化方法について学びます。	2 前	60		○	△	○	○						
23	○		機械学習Ⅲ	教師なし学習の代表的な問題設定であるクラスタリングと次元削減について学びます。クラスタリングの手法としてk-means法と混合正規分布、次元削減の手法として主成分分析について学びます。	2 後	60		○	△	○	○						
24	○		エッジコンピューティングⅠ	今日におけるIoTシステムの構成を踏まえた上で、IoTデバイスの設定やセンシングしたデータの送受信方法について学びます。	2 前	30				○	○	○					
25	○		エッジコンピューティングⅡ	センシングしたデータを収集・処理するプログラミングについて学びます。IoTデバイスを活用したシステムの開発演習を行います。	2 後	30				○	○	○					
26	○		クラウドコンピューティング	クラウドとは何かおよびクラウドの構成を踏まえた上で、クラウドサービスを利用した環境構築の方法、代表的な機械学習アルゴリズムの利用方法、AIシステムへの活用方法について学びます。	2 後	30		○			○	○					
27	○		卒業研究	2年間の集大成として各自・各グループでテーマを設定し、研究・制作活動を行います。卒業論文を提出し、プレゼンテーションを行います。	2 後	150		△		○	○	○					
28	○		統計学Ⅰ	統計学の歴史と発展および基礎数学を踏まえた上で、記述統計学について学びます。低次元データを用いながら、データを可視化する各グラフ、各種代表値の定義と意味、確率論の基礎について学びます。	1 前	30		○			○	○					
29	○		統計学Ⅱ	推測統計学について学びます。具体的には、大数の法則、中心極限定理、母集団とサンプリング、推定、検定について学びます。	1 後	30		○			○	○					
30	○		データマイニング	ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	2 前	60		△		○	○	○	○				
31		○	データサイエンスⅠ	データサイエンスの役割や領域を踏まえた上で、記述統計学によるデータの把握と比較方法、相関関係などの2変数の関係や時系列データの解釈、ビジネスにおける予測と分析結果の報告について学びます。	1 後	30		○			○	○					
32		○	データサイエンスⅡ	Kaggleなどに代表されるサービスを利用し、より実践的なデータ前処理および各種分析手法について学びます。	2 前	30		○			○	○					
33	○		就職活動リテラシー	就職活動の過程で避けて通ることができない書類審査や面接に備え、IT業界全体の構造・職種・業務内容およびその他必要な事前準備（エントリーシート・履歴書の作成）について学びます。	1 後	30		○			○	○					
合計						33	科目	1770 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。